

万博国際交流プログラム シンポジウム

ブラジルの環境から考える

「持続的な世界のためわたしたちができること」



プログラム

13:30-13:35 はじめに

【第一部】 ブラジルの環境をめぐる現状

13:35-14:05 舩方 周一郎

アマゾン開発の起源とブラジルの環境運動

14:05-14:35 下郷 さとみ

アマゾン先住民族の“里山文化”と抵抗運動

14:35-15:05 石丸 香苗

人間の尊厳を叶える小さな農業—アマゾン小農集落より

【第二部】 Temos que fazer ~ わたしたちにできること

15:20-15:35 天谷 理香子、宗近 眞子、前田 凜

福井県立大学生によるブラジル訪問成果発表

15:35-16:20

ディスカッションと質疑応答

【ディスカサント】フロレス漆間 アンドレア百合

【登壇者】下郷 さとみ、舩方 周一郎、宗近眞子、前田凜

来年2025年に開催される大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとし、持続的な未来の構築を考える場を目指しています。万博に参加するブラジル連邦共和国は、福井県ともゆかりが深い国であり、“Temos que fazer”(わたしたちは行動しなくてはならない)を標語に、環境問題をメインテーマとして扱います。

ブラジルが約6割を擁するアマゾン熱帯雨林は、「地球の肺」と言われる一方、その面積は減少し続けています。これはブラジルだけの問題ではなく、世界中が影響を受ける環境問題であるとともに、世界中が責任をもって考えアクションをおこしていくべき課題です。大阪・関西万博を契機としてブラジルの環境・社会問題に取り組む方々を福井に招き、「持続的な世界のためわたしたちができること」を考えます。

登壇者紹介



舩方 周一郎 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院)

群馬県高崎市生まれ。政治・社会の分極化の深刻さが伝えられるブラジルを中心に、ラテンアメリカにおける環境と政治のメカニズムを分析する他、エネルギー・気候変動分野を通じた新興国間の協力関係についても研究している。



下郷 さとみ (フリージャーナリスト)

石川県金沢市生まれ。アマゾン先住民族の権利運動を追う他、リオデジャネイロのファベラを主なフィールドに社会的マイノリティの民衆運動の取材も続けている。農的生活を求めて移住した南房総の農村で里山保全の活動にも携わる。



石丸 香苗 (福井県立大学 学術教養センター)

京都市生まれ。ブラジルと日本を中心に、森林利用についての研究を行う。ブラジルではアマゾン河下流の都市近郊域で、小農集落の森林利用と生産がどのように森林減少や域内の食糧安全保障に関与しているかを研究している。



フロレス漆間 アンドレア百合 (福井県立大学 地域経済研究所)

サンパウロ市生まれ。サンパウロ大学建築都市計画学部卒業。京都大学大学院人間環境学専攻博士後期課程終了。京都大学助教などを経て、現職。専門は都市地域環境学。著書に「都市の近代化と現代文化:日本・ブラジルの対話」(編)など。



天谷 理香子 (福井県立大学大学院生物資源学専攻)

宗近 眞子・前田 凜 (福井県立大学生物資源学部創造農学科)

福井県立大学代表として、今年9月にブラジルを訪問。ジャパン・ハウス サンパウロでの「ミニ福井まつり」や福井村の若者との交流の成果について発表。

2024年 12月 14日(土)

13:30-16:20

福井県国際交流会館

地下1階 多目的ホール

福井市宝永3-1-1

※北陸ろうきん隣の臨時駐車場をご利用ください

【定員】 150名

【申込み】 事前申込み(当日参加可)



お申込みは
こちらから



ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。
Towards a brighter future for all

開催 2025年4月13日(日) - 10月13日(月) 会場 大阪 夢洲(ゆめしま)
Period Sunday, 13 April to Monday, 13 October 2025 Venue Yumeshima Island, Osaka City

【問合せ先】 福井県 産業労働部 国際経済課 旅券グループ(担当:谷口)
TEL: (0776) 28-8820 E-mail: kokusai@pref.fukui.lg.jp

主催: 福井県 共催: 福井県立大学

